

『銃・病原菌・鉄』

ジャレド・ダイヤモンド著、倉骨彰訳／草思社

ニューギニア人のヤリという人物が発した「白人はたくさんのもを発達させてニューギニアに持ち込んだが、ニューギニア人には自分たちのものといえるものがほとんどない。それはなぜだろうか？」という素朴な質問からプロローグが始まる。人類社会の歴史は世界の異なる場所で異なる発展を遂げたが、ユーラシア大陸系の民族や北アメリカ大陸への移民の子孫が世界の富と権力の大半を支配するという現代社会の不均衡はどうして生じたかについて、過去一万三千年の人類史の中で解説しようというのである。本書の帯は「なぜ人間は五つの大陸で異なる発展をとげたのか？」「なぜアメリカ先住民のほうが逆に旧大陸を征服できなかったのか？各大陸の住民の運命を決めたものとは？」という挑戦的なものである。こうしたテーマにも拘わらず、著者は歴史学者でも地理学者でもなく、カリフォルニア大医学部教授で著名な進化生物学者である。そして、このことが歴史を対象としながら、多様な科学分野の成果を用いる手法に繋がっているのだ。

なぜ、民族、地域毎の差異が生じたのか。その根本要因は「家畜にできる動物（大型草食哺乳類の家畜－由緒ある14種）と栽培できる植物の入手（肥沃な三日月地帯の八種の起源作物）とその伝播」にあるとする。つまり、これらが手に入った地方では、農業によって食料の大幅増産ができ、それにより労働力に余裕が生じて技術開発を進められるようになった。さらに、家畜と人が共生し、人口が増加することによって、家畜由来の疾病が人間に蔓延するようになるが、疫病の流行を繰り返しながら徐々に免疫を身につけたと説明する。そして、ユーラシア大陸が東西に広がり、アフリカ大陸、南北アメリカ大陸が南北に広がるという地理的相違が、食糧生産（農作物や家畜）や種々の製造技術そして各種疫病の免疫の伝播速度に差を生じさせたのだ、と非常に魅力的に論じている。

その結果、鉄器で武装し、文字を使い、致死性の疫病を保菌しつつ免疫を持つ社会（ユーラシア大陸・西欧人の社会）が出現し、新大陸のような異なった社会と出会う時に、「征服」という現象が生じたと示す。本書のタイトルは、西欧人による征服の直接の要因を凝縮して表現したものである、と著者は記す。

この本がおもしろかったならば次に読むと良い本－西欧が世界を支配する前が判る：

『ヨーロッパ覇権以前（上・下）』 ジャネット・L.アブー＝ルゴド著、佐藤次高・他訳 岩波書店 2001年

執筆者紹介

中出 文平

環境・建設系教授。専門領域は、都市計画（土地利用計画・地区計画）。

『書名』 著者名(翻訳者名) 出版社または文庫・シリーズ名 出版年 税込価格

『銃・病原菌・鉄』上・下巻 ジャレド・ダイヤモンド著（倉骨彰） 草思社
2000年 3,990円

『ヨーロッパ覇権以前』上・下巻 ジャネット・L.アブー＝ルゴド著（佐藤次高・他） 岩波書店 2001年 5,880円

[ブックガイド目次へ](#)